

小学校における実践

—多様な言語文化背景をもつ子どもたちの主体的参加を促す—

東京都江戸川区立一之江小学校

豊島 英明



2019年10月12日（土）

子どもの日本語教育研究会第4回研究会

平成31年度 日本語指導の状況

1 学校及び地域の概要

- ・他校からの通級が増加。
平成31年度、区内21校28名通級。
- ・中国引揚者用の寮があり開設された。
現在は、保護者の勤務や国際結婚で来日した外国人児童が中心。

2 日本語指導の状況

- ・専任3名で、個別指導と2～3人程度のグループ指導をしている。
- ・テキスト、カード、作文指導、絵本の読み聞かせ音読により、日本語の語彙を増やすようにしている
- ・教科学習の予習と補習。
- ・年3回の在籍学級訪問。

3 指導上配慮していること・問題点

- ・他校通級の児童は、在籍学級の担任と連絡ファイルで情報を共有している。
- ・自校通級の児童は、担任との連絡を密にして児童が在籍学級に、より馴染めるよう時間割や学習内容などの配慮をしている。

5 在籍児童の状況

(平成31年7月1日現在)

学年	人数 (人)
1	3
2	4
3	5
4	4
5	5
6	7
合計	28

	人数 (人)
校内通級	6
他校通級	22

言語	人数(人)
英語	1
中国語	4
フィリピン語	21
ベンガル語	1

JSL国語科4年「読む」 「のはらうた」

単元設定の理由

児童は日本語の学習を始めて、1年5か月。聞く、話す力は着実についてきた。説明文などの意味を理解することはできるが、物語文などに出てくる登場人物の心情変化や言語表現の理解にはまだ課題が見られる。

本単元を通し、日本語がもつ言語表現の楽しさや豊かさに気づかせ、在籍学級や普段の生活で使えるようになってほしい。

このような理由から、本単元を設定した。

本単元は、「読むこと」の領域の指導内容を
取り上げた単元である。詩をどのように読むか
という指導としては、「読むこと」領域の「情景を
想像しながら読む」ことを軸にしながら、読んで
考えたことを発表し、感じ方の違いに気づかせる
ことが欠かせない。

本単元では、それらの指導が行いやすいような
詩が4編選ばれている。本単元での中心的な指導
内容は、以下の通りである。

- ・野原の住人の性格や思いを想像する。
- ・好きな詩を発表し合い、感じ方の違いに気づく。
- ・想像したり感じたりしたことを交流する。

「のはらうた」の詩の世界観を味わうための手立て

第1時：「のはらうた」のマインドマップを作成する。
図鑑やインターネットを使って野原について詳しく調べることを通して、野原には、様々な動植物や自然の恵が存在することを理解し、イメージを視覚化できるようにしていく。

第2、3時：「のはらうた」の詩の世界を言葉と絵で表現する活動を行う。「のはらうた」から詩を2編取り上げ、面白い・いいなと思ったところと、分からない・不思議に思ったことを板書で整理する。さらに、言葉では説明が難しい情景や住人のいきいきとした様子を絵にすることで、児童の情感を豊かにし、言語感覚を研ぎ澄ませせていくことにつなげていく。

詩の表現の工夫と効果に着目して読むための手立て

詩の表現技法には、オノマトペ、リズム（五・七調、七・五調）、リフレイン（繰り返し）、擬人法などがある。詩の面白さや不思議さは、作者の表現の工夫に起因することが多い。

そこで本単元では、授業で扱う詩を2編に厳選し、読むことで、学習者が詩の表現の工夫に気づけるようにしていく。

今回は技法の呼称については、学習者に細かく説明はせず、本人の気づきや発言を重視する。子ども自らが「よりよい表現の工夫」の視点を持つことで、自分なりの読みを深めていくとともに、詩の創作活動にもつなげていきたい。

学習単元指導計画（全3時間扱い）

	○学習活動	伸ばす国語科・日本語の力 「目標とする表現・語彙」	※支援
第一時	<p>○学習のめあてと見通しをもつ</p> <p>○野原に係る語彙を広げる</p> <p>・「のはら」という言葉から、マインドマップを作る</p>	<p>・野原にいる動植物に関わる語彙 (虫, 野原, 花, 季節など)</p>	<p>※野原にいる動植物に関わる語彙を広げる活動は, 写真, 図鑑, 絵カード, ホームページを参照しながら, 学習者が理解しやすいようにする。</p>
第二時	<p>○二つの詩を読む</p> <p>「おれはかまきり」かまきりりゅうじ</p> <p>「きまったぜ」かまきりりゅうじ</p> <p>・面白いと感じたところや, いいな思ったところを発表する。</p> <p>○好きな詩を一つ選び, 詩の世界を絵で表現する</p>	<p>・「面白い・いいなと思ったところは～です。」</p> <p>・「私が選んだ詩は～です。」</p> <p>・「なぜなら～だからです。」</p>	<p>※扱う詩は, リフレイン(繰り返し)があるものを選択し, 詩の面白さが感じられやすいようにしていく。</p>
第三時	<p>○二つの詩を読む</p> <p>「みず」こぶたはなこ</p> <p>「いろんなたべかた」こぶたはなこ</p> <p>・不思議に感じたことや疑問に思ったところを発表する。</p> <p>○好きな詩を一つ選び, 詩の世界を絵で表現する。</p>	<p>・「分からない・不思議に思ったところは～です。」</p> <p>・「私が選んだ詩は～です。」</p> <p>・「なぜなら～だからです。」</p>	<p>※扱う詩は, 擬人法があるものを選択し, 詩の世界観が感じられやすいようにしていく。</p>

江戸川区：教育出版

他区：光村図書出版

教科書以外の詩を選んだ

(日本語の面白さを知ってほしいから)



詩を乗しもう

のはらうた

野原には、たくさんに住人がいます。野原のみんなは、ふだん、どんなことを考えたり感じたりしているでしょう。詩人の工藤直子さんが、野原の仲間たちの声をとどけてくれました。みんなの声に、耳をかたむけてみましょう。

しんびんのあさ

かたつむりてんきち

まいにち おんなじみたいだけど
まいにち いろんなことがおこる
こりやおどろいた おやびつくり
へへえなるほどな ふうんそうか
まいにち しんびんのあさがきて
ぼくのめ まいにちびつくりめ！
つんつんのばして びつくりめ！



ひかりと やみ

ふくろうげんそう

みあげれば
よそらの ほしが
まつりのように まぶしい
ああ
ひかるためには
くらやみも ひつようだ



はなひらく

のばらめぐみ

はなびらと
はなびらと
はなびらの あいだに
のはらの わらいこえを
すこしずつ
すこしずつ
すこしずつ ためて
ちいさな ばらのつぼみが
ほんのりと
ほんのりと
ほんのりと
ほんのりと
めをさまし
はなひらく



はしる

こいぬけんきち

まえあして ちきゆうをつかみ
あとあして ちきゆうをける
まえあして ちきゆうをつかみ
あとあして ちきゆうをける
もつともつともつともつと
まえあして ちきゆうをつかみ
あとあして ちきゆうをける
いま ぼくは
かぜになる



次の詩集には、野原の仲間たちがたくさん出てきます。

どろんこで
 すべって ころぶのが すき
 ぼしや びちや ちよび
 くちや つるん ころり
 まっくろけ!

 わたし みずあびも すき

水浴び

水の音が楽しい



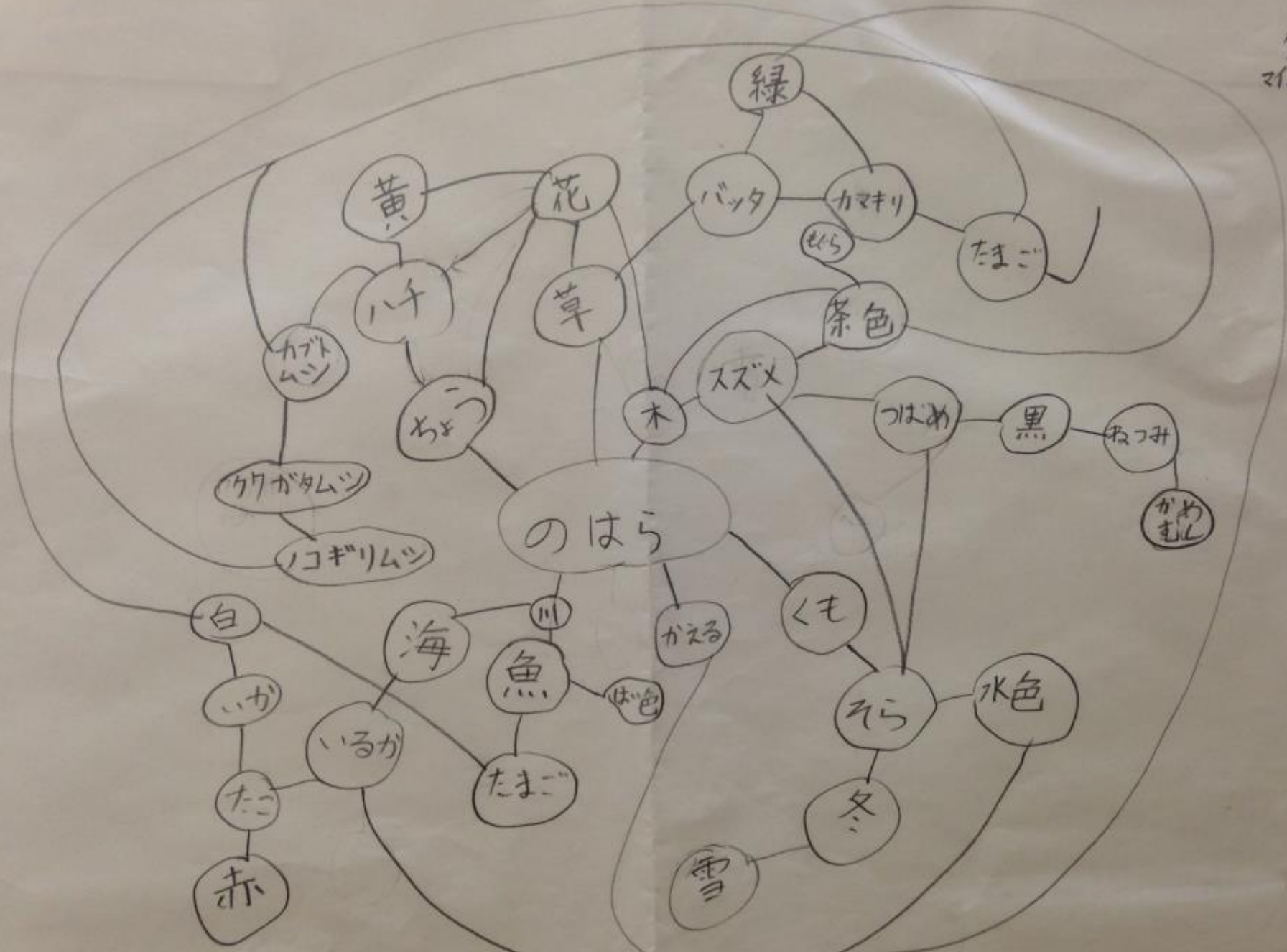
意味
 分からぬ
 足踏み

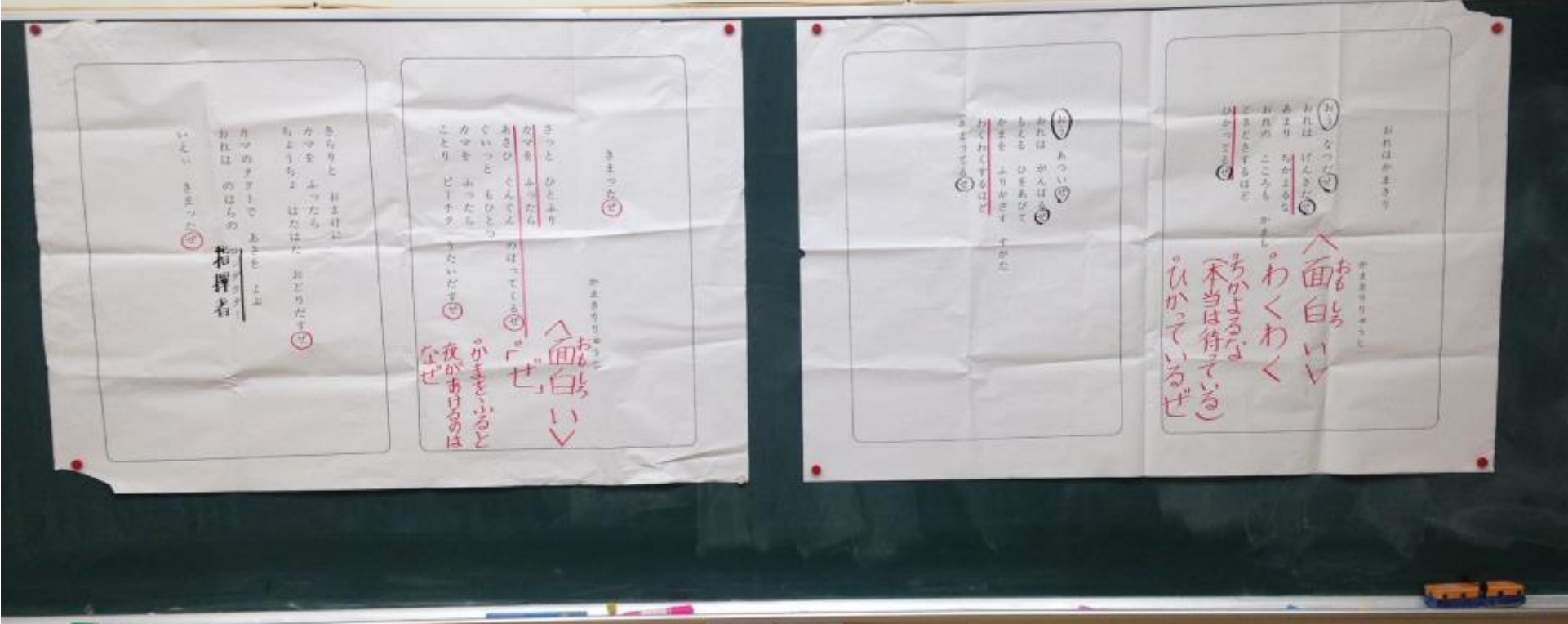
わたし みずたまり すき
 みずたまりで
 あしおみするのが すき
 あしおみして
 どろんこできるのが すき



こぶたはなこ
 人として認識している。

3/4(火)
第1次
マインドマップ





きつと ひとより
かまき ふつたら
ぐいっと もひとつ
ことり じーたら
いとい きまつたぜ

きまつたぜ
かまき ふつたら
ぐいっと もひとつ
ことり じーたら
かまき ふつたら
ぐいっと もひとつ
ことり じーたら

かまき ふつたら
ぐいっと もひとつ
ことり じーたら
かまき ふつたら
ぐいっと もひとつ
ことり じーたら

あついで
かまき ふつたら
ぐいっと もひとつ
ことり じーたら
かまき ふつたら
ぐいっと もひとつ
ことり じーたら

あついで
かまき ふつたら
ぐいっと もひとつ
ことり じーたら
かまき ふつたら
ぐいっと もひとつ
ことり じーたら

おれはかまきり

おう なつだぜ

おれは げんきだぜ

あまり ちかよるな

おれの ころも かまも

どきどきするほど

ひかっているぜ

かまきりりゅうじ

面白

わくわく

ちかよるな

本当は待っている

ひかっているぜ

おう あついで

おれは がんばるぜ

もえる ひをあびて

かまを ふりかざす

わくわくするほど

きまつてるぜ

すがた

きまつたぜ

かまきりりゅうじ

さつと ひとふり

カマを ふつたら

あさひ ぐんぐん のぼってくるぜ

ぐいっと もひとつ

カマを ふつたら

ことり ピーチク うたいだすぜ

面白 い
「せ」

かまをいけると
夜があけるのは
なぜ

きらりと おまけに

カマを ふつたら

ちようちよ はたはた おどりだすぜ

カマのタクトで あさを よぶ

おれは のはらの
指揮者

いえい きまつたぜ

好きな詩は、どつち。

・おれはがまきり

○好きなかしよ

・「せ」

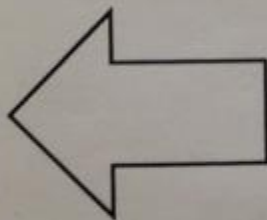
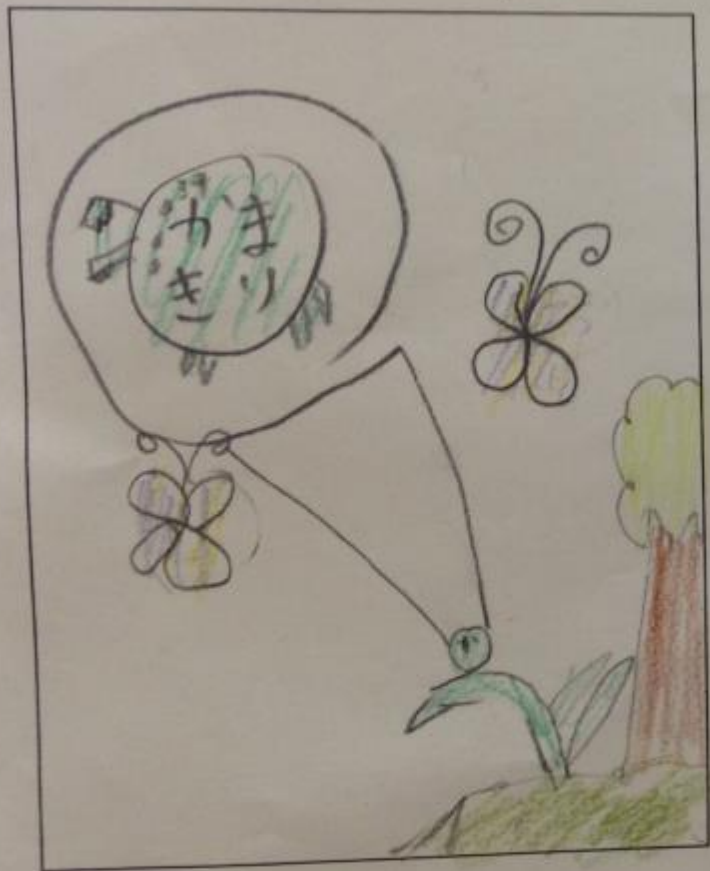
・「おっ」

○どうして

・不思議のところと面白いところが多いから

・いいかたがおもしろいから。

・おもしろいから。



年齢
10
才

性別
男

名前
かまきりりゅうじ

場所
ものはら

好きなこと
おれ

性格
おれは、すごい人

みず

わたし みずたまり すき
みずたまりで
あしぶみするのが すき
あしぶみして
どろんこできるのが すき

こぶたはなこ

面白

こぶたさんが
遊んでる事が
伝わってくる。
楽しい時間を
過ごしたから。

どろんこで

すべって ころぶのが すき

はしや びちや ちよび

くちや つるん ころり

まっくろけ!

.....

わたし みずあびも すき

ふしぎ
不思議
分からない

こぶたがすきな
ものを考える。

すきな詩は、どつち。

・みず

○すきなかしよ。

・ばしや・びちゃ・ちよび・くちや・つるん

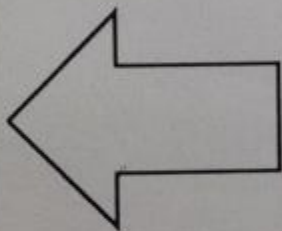
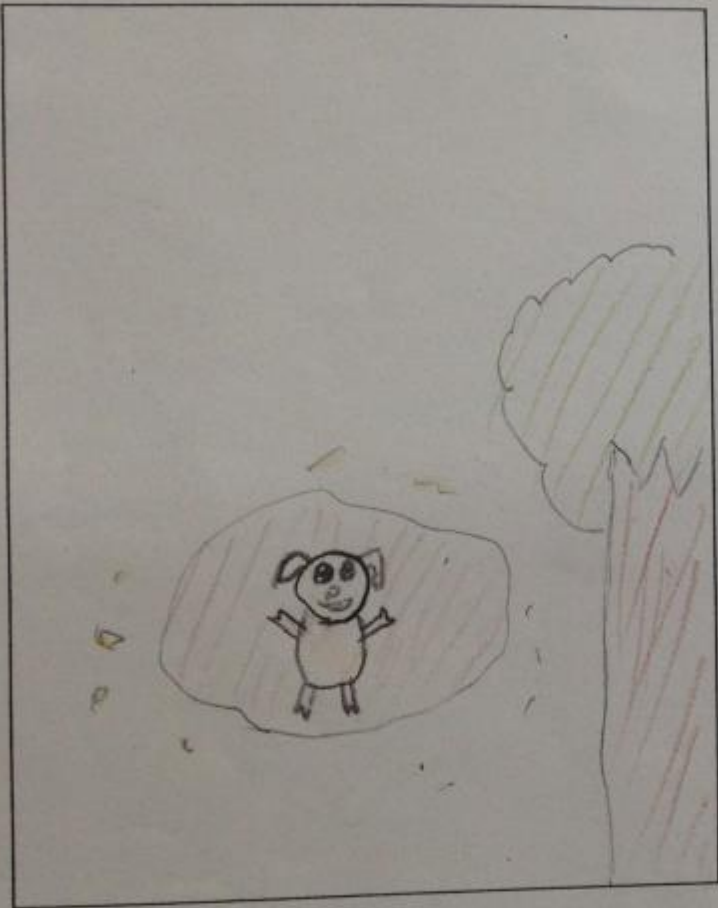
・まくろけ

○どうして。

・こぶたさんが遊んでいることが伝

・あってくる

・楽しい時間をすごしたから。



6
+
こ
い

年ねんれいれい

女

せいせいべつべつ

こ
い
た
は
な
こ

名なまえまえ

の
は
ら

場ば所しょ

あ
そ
ぶ

すすきなきなことこと

あ
そ
び
が
す
き

せいせいかくかく

成果

- ・ 野原の住人の性格や思いを想像しながら、詩を読むことができた。
- ・ 詩の特徴や表現の工夫を見つけ、それを手掛かりにして「のはらうた」に出てくる生き物たちの人物像（性格や思い）をとらえることができた。
- ・ 児童の世界観を知ることで児童理解が増した。

課題

- ・ 児童が想像したり感じたりしたこと
多くの人（参観者）と交流する手立てが
あってもよかった。
- ・ 学習内容を授業後にも生かす仕掛けが
必要であった。

協議会での内容

- オノマトペ写真を用意し、児童が発音し、児童が写真を選ばせる活動をしてよかった。（例、カリカリ梅）
- 次の展開を児童に考えさせる。
（こぶたはなこさんが次にしたいことは何。
次に食べたいものは何。次は何して遊びたいと思う。）
- バケツやたらいに水をはり、実際に水をさわったり、体を動かしたりして感じてみる。児童の言葉を生かす。五感をアウトプットする。
- 参観している先生方を活用する。
- 物語文にチャレンジしてもよかった。